

猫におけるアミロイド産生性菌原性腫瘍の1例

中村諒子¹⁾ 酒井洋樹^{1)†} 中村光孝¹⁾ 驒井徳磨¹⁾
西川貴士²⁾ 柵木利昭¹⁾

1) 岐阜大学応用生物科学部 (〒501-1193 岐阜市柳戸1-1)

2) 愛知県 開業 (西川ふれあい動物病院：〒486-0818 春日井市東野町西3-1-7)

(2008年11月4日受付・2009年2月27日受理)

要 約

15歳雄の日本猫の左上顎第1前臼歯歯肉部頰側に腫瘤が認められた。腫瘤は肉眼的に歯肉と境界不明瞭で、歯肉と同色を示した。病理組織学的に、サイトケラチン陽性の菌原性上皮様の腫瘍細胞が、シート状あるいは索状に増殖していた。また、腫瘍細胞に接するように、石灰沈着を伴った、Direct fast scarlet 染色陽性のアミロイド沈着が認められた。以上の所見から、アミロイド産生性菌原性腫瘍と診断した。——キーワード：アミロイド，猫，菌原性腫瘍。

----- 日獣会誌 62, 645～647 (2009)

† 連絡責任者：酒井洋樹 (岐阜大学応用生物科学部獣医学講座獣医病理学分野)

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 ☎・FAX 058-293-2957 E-mail: shiroki@gifu-u.ac.jp